

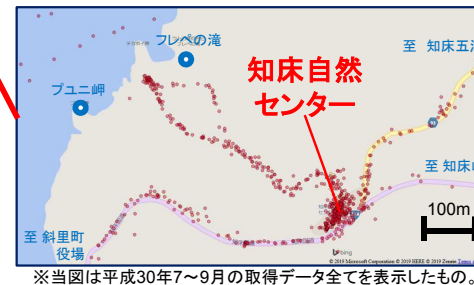
④ 効果検証に向けた調査・分析

- 移動経路データ分析
 - ・ スマホ用アプリ「Drive Hokkaido！」により取得した外国人観光客の移動経路データ(GPSデータ)を分析し、立寄り地、道の駅利用者の周辺地域の周遊状況を把握
- 観光情報の閲覧状況
 - ・ 外国人観光客が情報板を閲覧し、関心を寄せている事例を確認
 - ・ Facebookにより発信した観光資源も数多く閲覧され、好意的なコメントも多数寄せられた
- ヒアリング(外国人観光客)
 - ・ 興味を持った観光資源、掲示情報の理解度等を聞き取り(行動変容の可能性を把握)
 - ・ ドライブ観光のストレス要因を聞き取り(観光資源間の距離が負担等)
 - ・ 道の駅の利用目的の聞き取りから、幅広い目的での立ち寄りを確認
 - ・ やさしい日本語等の表記例を示し、外国人観光客の理解度を調査
- ヒアリング(周辺施設)
 - ・ 「全体的な観光客の入込数」は前年とほぼ同様
 - ・ 「外国人観光客の入込数」が増加と感じている施設がやや多かった
- ヒアリング(道の駅)
 - ・ 外国人のみならず、日本人への情報提供にも貢献していることや、案内所職員の見聞を広められる等のメリット、作業負担がさほどでも無いこと等の実態を把握し、他地域へ展開すべきという意見を得た

移動経路データ分析

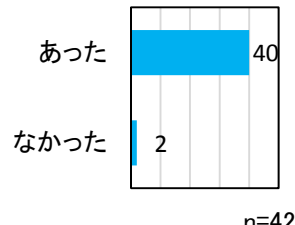


- スマホ用アプリ「Drive Hokkaido！」により取得した外国人観光客の移動経路データ(GPSデータ)を分析
- ・ 分析対象の取得測位データ
 - 全道全域 平成29年9月～11月 約1,200件
 - 平成30年1月～12月 約2,600件



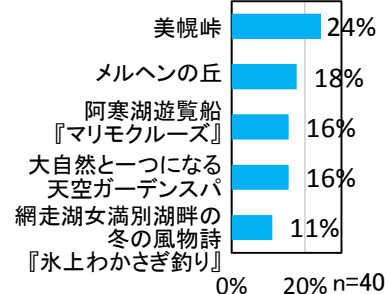
外国人観光客ヒアリング

興味を持った観光情報



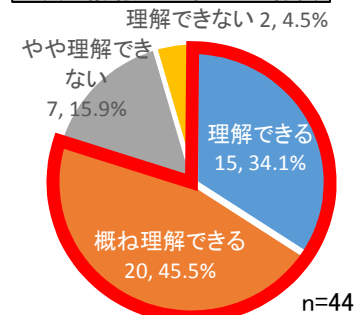
- 回答者のうち約95%が「興味を持った情報があった」と回答

興味のあった上位5施設



- 興味を持った施設を聞き取り

観光情報の内容の理解度



- 回答者のうち約8割が観光情報の内容を「理解できる」又は「概ね理解できる」と回答

⑤ 試行効果の概要

- 広域的な観光情報の集約による道の駅を拠点とした一元的な情報発信は外国人観光客の周遊促進に有効
- 地域ならではの観光資源の情報発信の強化を行うことにより地域の観光地としての魅力の向上が可能
- 集約した観光情報を用いて観光案内所の案内機能の強化が可能
- やさしい日本語の活用により外国人観光客でも日本語の理解度が一定程度向上する可能性
- 今後に向けて、情報発信拠点とする道の駅を拡充し、連携を強化することにより、更に周遊を促進できる可能性等を確認

【参考】道の駅「摩周温泉」の平成30年度重点「道の駅」選定について
道の駅「摩周温泉」は、平成31年1月に、平成30年度重点「道の駅」に選定されました。

【企画の概要】

- 道東地域観光の玄関口の役割を担うとともに、多様化する旅行ニーズに対応するため、シーニックバイウェイ(日本風景街道)や周辺自治体と連携することで、観光情報や地域情報の収集・発信を行う広域的な情報発信拠点とする
- インバウンド観光客の受入体制及び情報発信のさらなる強化を図る
- 厳冬の暴風雪害時の一時避難場所として、災害情報提供の強化を行い、防災拠点として機能向上を図る